

個別最適な学びを実現するための「多層的な支援」の実践例

～データを用いた支援 教育総合データベースの活用に向けて～

「多層的な支援」の目的

- ・子供たちにとって効果的な指導方法を模索して改善を繰り返すこと
- ・子供たちが自身に合った方法で学習に取り組めるよう支援すること

多層的な支援システム(RTIモデル)

第1層支援=全体への支援
学校・学級全体を対象としたユニバーサルな支援

第2層支援=一部への支援
1層支援だけでは活動が難しい、
配慮が必要な一部の児童生徒に対する支援

第3層支援=個別の支援
特別な支援を必要とする個人に対する個別の支援



令和5年度
指導の重点・主な施策

STEP
1

RTI (Response To Intervention) ミーティングの導入

主に子供の「学習面」に関する多層的な支援を実施

- ・単元テストや、教員が記録したデータをもとに効果的な指導方法を検討する。
- ・一層支援や二層支援が効果的であったかどうか振り返り、次の指導に生かす。

▼開催の概要

- ・月に1回、単元ごと、学年ごとに実施
- ・学年外の教員も適宜参加

後期	算数	学期		長方形と正方形			小計算(1)			かけ算(2)			かけ算(2)		
		単元名	単元別記点	150	150	100	100	150	150	100	100	150	150		
要点	死 計	A の 基 準	死 計	死 計	死 計	死 計	死 計	死 計	死 計	死 計	死 計	死 計	死 計		
記点	1250	86	86	86	86	86	86	86	86	86	86	86	86		
記点	658	92	92	92	92	92	92	92	92	92	92	92	92		
記点	692	83	83	83	83	83	83	83	83	83	83	83	83		
A	725	675	525	98	100	50	150	100	100	50	100	100	100		
B	725	675	525	96	90	50	140	93	100	50	150	97	95		
C	725	675	525	96	90	50	140	93	100	50	150	100	100		
D	720	675	525	96	85	40	125	83	100	50	150	100	100		
E	575	675	525	95	100	50	150	100	100	50	100	100	100		
F	710	675	525	94	80	40	120	80	95	50	145	97	95		
G	705	675	525	94	80	40	120	80	100	40	140	93	95		
H	700	675	525	93	100	50	150	100	100	40	140	97	95		
I	695	675	525	92	80	40	120	80	100	45	145	97	95		
J	595	675	525	91	95	40	130	95	100	40	140	93	95		
K	665	675	525	88	55	30	85	57	100	50	150	100	100		
L	655	675	525	87	80	40	120	80	100	40	140	93	95		
M	649	675	525	86	80	50	130	87	95	40	135	90	95		
N	560	675	525	86	70	40	110	73	100	50	135	90	95		
O	605	675	525	80	35	30	65	43	100	35	135	90	95		
P	555	675	525	74	30	30	60	40	80	45	125	83	90		
Q	550	675	525	74	30	30	60	40	80	40	125	83	90		

↑ 単元テスト結果の入力フォーマット（入力データはダミー）

STEP
2

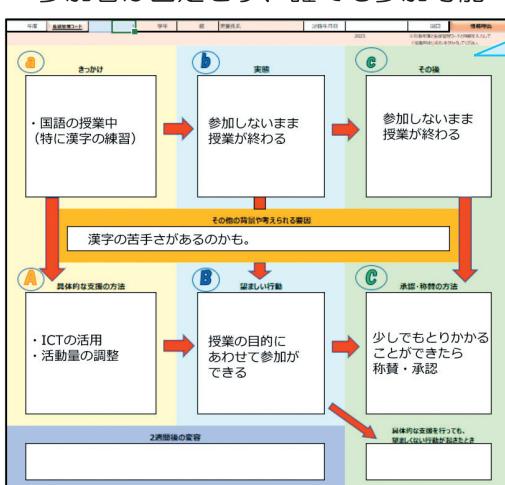
サポートミーティングの導入

第3層支援が必要な子供に様々な視点で個別的な支援を実施

- ・ダッシュボードの定量的かつ多様なデータ、また、教員が記録した子供の特性や支援の履歴など定性的なデータを利用する。
- ・フレームに基づいて検討を行い、毎回ミーティングの記録を蓄積していく。

▼開催の概要

- ・週に1回、開始時刻を定めて15分間実施
- ・対象者の情報は事前入力・確認
- ・参加者は固定せず、誰でも参加可能



〈検討の進め方の例〉

- ・問題が起こっているかどうかではなく、行動面、学習面で気になる子供を対象とする。
- ・対処的な指導ではなく「未然防止」を目的に、予防的な支援の在り方を検討する。
- ・参加者は対象者のデータを事前に確認する。

〈成果の例〉

- ・定期的かつ気軽に相談できる環境があり、問題を抱え込まずに済み、子供の問題行動等も少なくなった。
- ・情報を集約し、事前確認することで会議が短時間で済み、支援方法を多角的に検討することができるようになった。

Point

- ・高頻度で予防的な支援が望ましい
- ・データを集約し、多面的かつ効率的な支援を

↑ 応用行動分析の考えに基づいた記録用フレーム